

〈教育と社会〉研究

第 31 号

2021

目 次

【 特 集 】 「境界線の学校史」の射程

巻 頭 言	1
木 村 元・江 口 怜・濱 沖 敢太郎・呉 永 鎬 神 代 健 彦・松 田 洋 介・山 田 宏・前 田 晶 子 座談会『境界線の学校史—戦後日本の学校化社会の周縁と周辺』の 意図と到達点	3
大 門 正 克 書評：木村元編『境界線の学校史 —戦後日本の学校化社会の周縁と周辺—』	19
木 村 元・神 代 健 彦・江 口 怜・呉 永 鎬 「教育の経験」を問いなおすために —大門正克氏の『境界線の学校史』書評への応答—	23
倉 石 一 郎	アガンベンから読み解く公教育における〈包摂と排除〉問題 29
農 中 至	「境界線の学校史」という視角は社会教育研究になにを問いかけるのか —北部九州産炭地社会教育史研究の視点から— 39

【 論 文 】

檀 上 祐 子	ブラジル「コロニア版日本語教科書」と佐野保太郎 49
宮 盛 邦 友	戦後教育学における「政治」概念の二重性 —「『政治』から『子ども』へ」（堀尾輝久）の前提的意味— 63
渡 辺 由美子	1924年の「副教科書問題」と信濃教育会 —小池直太郎の副読本論に着目して— 75

【研究ノート】

秋 元 波	ラオス・アカ族の人々と学校の関わり —少数民族の教育問題を問い直す— 87
研究会だより	95
編集後記	98